

「これで安心 して通れます」

県道甲良多賀線の久光精肉店からKモールまでの歩道設置工事がこのほど完成し、よろこばれています。

周辺住民からは「危なくて、わざわざ遠回りするのや」などの声が寄せられていました。日本共産党は10年来、県や町に要請を続け、森茂樹県会議員も現地を視察し県土木事務所（当時）に粘り強く交渉してくれました。新幹線栗東新駅建設などのムダをなくせば、もっと「生活密着型」の公共事業を増やすことができるのです。



お元氣ですか

のぶあきです

最高気温を更新！猛暑日。お元氣でお過ごしでしょうか。

ある本を読んでいた妻が声を出してある行を読み出した。聞いていて安倍首相に的を当てた文章かと思っただけだった。そのくだりとは・・・押し付けられた老人やつとめ人の医療費の自己負担と診療報酬の切り下げ。値切られた人生の終焉とそれに寄り添う仕事。耳ざわりの良いことばで、何ごとも「他人事」のように語る今の日本の首相は、たとえば医療の現場で、死をお互いに引き受けて歩み出そうとしている患者と医師の姿を、自らのイマジネーションによって想起することができるでしょうか。

いくらイマジネーションの力があっても、幸せを願い、汗水たらして働き、家族の葛藤を愛へと昇華させていく、圧倒的多数の国民のつましくまじめな生活と心情を、我がこととして経験しなければ、それは無理なことでしょう。（白石正久著「野に咲く花のように・・・障害児を育てる」より）「この著書の白石さんはまるでこの選挙結果を予測していたかのようなあとがきを、なんと5年前の7月に書いていたから、またビックリしたのです。「顔」だった安倍さんの後釜がない自民党も庶民生活のイメージが浮かばないのかも。



「ふるさと交流村構想」

施設先行では「農」おろそかに

去る2日、議会全員協議会が開かれ、「甲良ふるさと交流村構想」の計画進行状況について町当局・内外エンジニアリング(株)から説明がありました。詳しい報告は別の機会に行ないます。

負担額変わらず??

…庶民の苦しみ よそに…

北川豊昭議長の「議会レポート」の「6月1日から住民税が改正」の記事に間違い部分があります。自・公政府が税源移譲による税制の見直しによる「負担は差し引きゼロ」の宣伝と同じ表を使っています。が、「定率減税を全廃するため所得に応じて右表になる。」として「税源移譲前」の合計額と「税源移譲後」の合計額が「同じ」と解説した点は明らかに間違いです。北川議長が示した表はあくまで税源移譲前・後の表。定率減税廃止により同一比較では制度上、従前支払税の7.5%増になるのです。中には昨年比で3～4倍になった人もあります。私の友人は「昨年ゼロだった住民税が今年は7万円!!受け取る年金は下がったのに、ホンマにショック受けた」と嘆いていました。

先の参議院選挙では、この住民税増税が大問題になりました。「こんなムチャクチャな庶民増税を決めたのは誰か!」「公明が言い出し、自民と一緒に強行した」事実をあばかれました。自公政府は3億円もの税金を使って「税源移譲で、プラス・マイナス同額」の大キャンペーンを展開。この自民・公明のペテン作戦に北川豊昭議長も加担したのでしょうか。くらしが大変なこの時期に消費税1%値上げに相当する定率減税廃止を他人事のように片付ける北川議長の政治姿勢の底が見えるようです。少なくとも記事からは「庶民増税ゆるすな」の気持ちは読み取れません。「『定率減税全廃』でも負担は増えない」と理解しているのなら「まちがっていました」との訂正が必要ではないでしょうか。それとも、「庶民には増税を押しつけ、大企業には減税」の現実をも覆い隠すつもりでしょうか。

甲良民報

2007年8月19日 363号
発行責任: 日本共産党甲良町支部
代表: 西澤伸明 甲良町在士 463
Tel.Fax38-4949

Eメール info@jcp-nobuaki.com
のぶあきホームページ
<http://www.jcp-nobuaki.com/>



この「交流村構想」については、地域振興計画、農業振興計画、拠点施設基本計画に分けて詳しく説明。
西澤議員は質疑応答で次のように発言しました。
町民の願いに沿うためには、「同和特別」をなくし終了すること(予算の公平確保、町民の団結を保障するうえでも重要)農業生産や農家の基礎力をつける支援を強化する(機械補助、パイプハウス補助など大幅増など)施設整備・ハード事業を絶対に先行しないこと。この3点を強調。農業者を中心とした準備組織は立ち上がっているのか、説明のなかにある「じっくり取り組む」と「19年度事業採択申請」は矛盾しないか、と質問しました。
また、特定交通安全施設等整備事業(いわゆる道の駅設置)が県湖東振興局であることが明確になったことから県や国に

「農」あるくらしで生活が成り立つようにしたい、これは切実な町民の声です。甲良の立地条件を活かし農業振興を支援することは町政の重要課題です。過去に発行された「計画」をしらべてみました。「第2次甲良町総合発展計画」(H11年)「甲良町都市計画マスタープラン」(H13年)「せせらぎ遊園まちづくり」の農業振興、地域振興の部分を読み直しましたが、同じような文言が並んでいます。今は崩壊した「サンフーズ」との連携がうたわれていました。また「交流村構想」のパンフレットでは、過去の農業振興には努力が不足していたことを認める記述も見られます。
なぜ、そうなったかの深い総括抜きに町民の求めるまちづくりは前に進まないと思います。いままでサボリ続けた時間「あわてては合意形成ができない」のです。「施設先行」は絶対に行なってはならないことが大切です。

西澤議員の話

も独自に要請したいと表明しました。